

氏名	宮 崎 健 史
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 2 9 7 号
学位授与の日付	昭和44年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	免疫性肝細胞障害に関する研究 第1編 抗肝抗体の肝細胞膜面への結合 第2編 肝細胞障害におよぼす抗肝抗体の影響について
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 大藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

抗肝抗体（循環抗体）および免疫適格細胞（細胞性抗体）による肝細胞障害性を検討するために、第一編では *in vitro* で抗ラット肝上清ウサギ血清を用い、肝抗原被覆ヒツジ赤血球およびラテックス粒子が抗血清を作用させたラット肝細胞膜面に結合することから、抗肝抗体が肝細胞膜面に結合することを実証した。また、ヒト肝抗原被覆ラテックス粒子が感作ラットのリンパ節および慢性肝炎患者の末梢血の一部リンパ球に結合することを見出しえた。

第二編では、ラット遊離肝細胞に抗ラット肝ウサギ血清および補体を作用させた後、Trypanblue による染色率、遊出酵素活性および細胞内呼吸につき観察し、抗ラット肝 whole cytoplasm 血清を作用させた場合に Trypanblue による染色率が高く、遊出酵素活性も高いことが観察されたが、抗ラット肝 mitochondria 血清の影響は明らかではなく、これら両抗血清の間には *in vitro* で肝細胞におよぼす影響に質的差異が認められた。

アレルギー、17巻、12号、昭43に掲載予定、原稿枚数：第一編21枚、第二編33枚

論文審査の結果の要旨

本研究は免疫性肝細胞障害に関して研究したものであるが、抗肝抗体が肝細胞に附着して、肝細胞の染色性に変化を及ぼし、肝内酵素を遊出させるとの知見を明らかにした点で新知見と言わなければならない。すなわち本研究は従来不明確であった流血抗体としての抗肝抗体の肝細胞に及ぼす作用を明らかにした価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。